

おすすめ 新着本

『恐怖のお笑い転校生』

安田 依央 著 集英社 913/ヤ/

小梅は東京に引っ越してきた、大阪生まれの小学5年生。お笑い大好きなのを隠して、おしとやかキャラを演じているが、ある日クラスに謎の転校生がやってきて…。

『恐怖！笑いが消えた街』

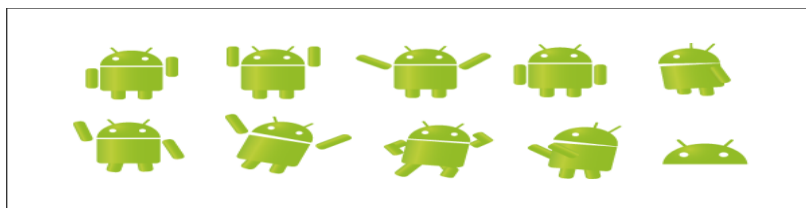
安田 依央 著 集英社 913/ヤ/

ひさしぶりに大阪に帰ってきた小梅。だけどクラスはギスギスしているし、テレビのお笑い番組も全然面白くなくて、なんだか様子がおかしい。街から笑いが消えていることを知った小梅は、大阪中の人形と力を合わせて戦う！

『子供が生きられる空間 : 生・経験・意味生成 』

高橋 勝 著 東信堂 371.4/タ/

空き地、路地裏など「ムダなもの」を排除した機能的な都市空間は、自然とふれ合い仲間と関わり合う大事な生活の場を、子どもたちから奪い去った。子どもの失われた自己形成空間の再生を現代の重要課題として多角的に追究する。1970年夏、子供たちが体験する奇妙な出来事。謎の機械人間や怪獣が次々と町を襲う。そして公害に汚れた地球を救うのはだれか？ 『ちくま』連載に加筆して単行本化。



★★★★★ おすすめ本 ★

『龍馬に聞け！』

八方 博行 著 幻冬舎ルネッサンス 328.1/サ/

「自分の心の洗濯をしてみよう」「社会や他人のために生きてみる」「愛嬌をもって、自分をさらけ出せ」など、龍馬の考え方から、人生につまずいたり困ったりした時に学べるべき教訓を紹介する。

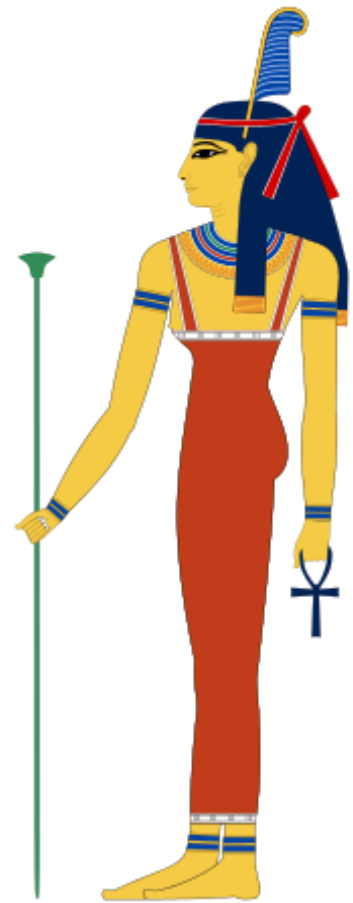
『引き出しの中の家』

朽木 祥 著 ポプラ社 913/ク/

人形のために作ったミニチュアの家に来たのは、小さな小さなお客さま。時を経て約束をかなえた“花明かり”と、2人の少女たちの交流を描いた感動のファンタジー。

西条ヤングアダルトコーナー YA

● ● 10月のテーマは……「身近な法律」 ● ●



2 0 1 5 年 1 0 月

西条市立西条図書館
住所：西条市大町1590
TEL0897-56-2668
開館時間9時～22時

10月のテーマは

『身近な法律』

法律って、かたぐるしいものではないんだよ。

毎日の生活にはルールが存在しています。これは、私たちの先人がこれまで長い年月をかけて、不自由なこと、不自然なこと、共同生活にかかせないことを、誰にとっても平等に、公平に、そして安全に、自分勝手ではない自由に・・・といろいろな観点から考え出されてきたものです。「このくらい、いいかな?」とか「失敗したなあ!」「どうしたらいいのかな?」と自分の中でも、気持ちに、心に、引っかかることがあるとき、きっと自分で不安に思うということは、どこかに違和感や、間違いに気付いているもの・・・と思います。法律って、間違いに近づかないこと。早く過ちを知る助けにすること。やり直すきっかけを見つけること。友人、知人、出会う人とのすてきな関係を築くことにひと役かっているものでもあります。

わたしたちの周りですでに解け込んでいる「法律」。正しく理解し、友達や身近な人とのつきあい方を思い返してみませんか?

☆☆☆ ☆☆☆

『はじめて学ぶ憲法 第1巻 憲法はだれに向けて書かれているの?』

菅間 正道著：新日本出版社 323/ス/1

日本国憲法の基本的な考え方をわかりやすく紹介。第1巻では、中学生がえん罪事件に巻き込まれた東京・綾瀬の「母子殺害事件」などを例に、憲法の立憲主義について考える。巻末に日本国憲法全文を収録。ほか2巻

『気をつけよう!薬物依存 第3巻』 渋井 哲也著：汐文社 368/シ/3

近年身近になってきている薬物問題。第3巻は、薬物を使用してしまった子どもたちを更生させるための社会的ネットワークや、薬物依存と司法との関係などを紹介し、薬物依存からの回復について解説する。

『君が選んだ死刑のスイッチ』 森 達也著：理論社（よりみちパン!セ 45）/326/モ/

ホームルーム、裁判員制度、死刑。この3つに共通する、最大の注意点はなんでしょう? 「罪と罰」「冤罪」「裁判員制度」「死刑」について、著者の考えをやさしく語ります。

『子どもに「ホームレス」をどう伝えるか』

生田 武志著：ホームレス問題の授業づくり全国ネット 375/イ/

「どうしてあんなところに人が寝ているの?」という子どもの疑問になんと答えるか。ホームレスに対する偏見と無関心を再生産しないための実践の記録。中高生、教職員向けの講演内容、コピーして使える発問例集等の資料を収録。

『謝るならいつでもおいで』 川名 壮志著 集英社 368.7/カ/

世間を震撼させた「佐世保小6同級生殺害事件」。新聞社の支局長だった被害者の父親の部下であり、約10年にわたり取材を続けた記者が、事件や被害者家族について、新聞には書ききれなかった話を綴る。

『トラブル回避！ 中・高生のための法律ガイドブック』

喜成 清重著 日本加除出版 320.4/キ/

日々の暮らしと法律がいかに密接にかかわっているかを、中・高校生に向けてわかりやすく解説する法律ガイドブック。一生をドラマ仕立てにして、長い人生の中で出会う様々な法律問題を紹介します。

☆☆☆ 新書 ☆☆☆

『父と娘の法入門』 大村 敦志著 岩波書店 320/オ/

わたしたちの生活を支えている「法」の仕組みはどうなっているのかを、法学者のお父さんが高校生の娘と対話をしながら探っていく。身近な話題をきっかけに、楽しみながら法の基本的な考え方を理解できる入門書。

『ルールはなぜあるのだろう』 大村 敦志著 岩波書店 320/オ/

サッカーのオフサイドやフィギュア・スケートの採点基準といったスポーツにつきもののルールは、競技をおもしろくするためにあるのだ。ルールを通してスポーツが求めるものを探り、私たちの生き方と法の間を関係を考えていく。

『10代の憲法な毎日』 伊藤 真著 岩波書店 323/イ/

校則と個人の自由、10代の結婚、生徒会や部活動でのトラブル等、高校生活で起こる出来事を憲法にてらして、高校生の疑問に答えるというかたちで考察する。憲法を生活にかす方法を具体的に学べる一冊。

『中高生のための憲法教室』 伊藤 真著 岩波書店 323/イ/

明日の主権者として未来を生きる若者たちに、日本国憲法のもつ力と価値をあますところなく伝えるとともに、自立した市民としていかに生きるかを説く。『世界』連載を書籍化

『「しがらみ」を科学する：高校生からの心理学入門』

山岸 俊男著 筑摩書房 361.4/ヤ/

社会とは、私たちの「こころ」が作り出す「しがらみ」だ。いじめを止めたいのに傍観してしまう子どものように、望んでもいない行動をとるよう、私たちに仕向ける。そんな社会の構造を解き明かし、自由に生きる道を考える。

